



源氏物語首書中後書

目錄

桐壺

帚木

空蟬

夕色

若紫



末摘花
 紅葉賀
 祝喜
 葵
 柳
 菟
 源氏

源氏物語首書中後書一

桐壺

一 屋久
 一 八
 一 所

之止事也
 源字又源字分源之
 日本記

一 おろしんちゆ

一 うらみとねふ

一 めきまら

一 わり

一 おいぢうさ

一 めととん免

精ソコム

えむらんちゆ

にんくの人世恨とむい

詩：冷眼ト作ルちゆ

むハヤちゆ

云也 ちゆ

史記 鄧都傳ラちゆ

見如側目而視ニ
号ソ曰蒼鳥ト

三折ラちゆ

一 かしくおあつた

一 しまらた

一 たくい

一 むのたね

一 ちせ

一 けむ

一 マらく

云情 云端 云道

云比 云類

人の徳をいむ

むたふむ人々ニ塵天ノ徳

号キ人ノ徳トいむ

人の威徳と自レ記

云別 日記

一まのりせ

参進 ニウホレ 日記

一うせすは

不用 不能 不苦

一かこた

忌 カキキ 可畏之神 日記

一うらう

日塔 渡殿ニリヤシラ 板ニマシニ書クニ

一えさぬ

敢 エ 日記

一たよまら

成人也 おとな

一いさなま

集 ミララ

一まのりけい

まのりけい まのりけい

一きあけ

た た

一まうて

退出也

一たてふき

云の件

一あしゆり

一切 永迅 八五抄云

一ふしせ

平 ナラカ 易記 巧論 諸

一うら

墓 ハナシ 子 ウラ

一やとありは

一とみふ

一やとありは

一とみふ

一今下りて

一百一

徒記曰ク余は一ツ

をテ之書者謂之衆

多度云云

御也 較良野 杖行 白氏文集

雅 イトケナシ 知 イトケナシ

壽 イナナキ 壽者多辱 莊子

百官ノ衆ヲ安ヤ 百安

一や

一とみふ

一やとありは

一とみふ

一人

一か

一とみふ

昔也 多ハ

名 文ニ

頽 中

あやしい文

今

頽 カク

寂 和名

い何

一 ねとたしき

一 うしろあき

一 まき

一 まき

一 らしき

一 お

一 かしき

面立 面目ノ

顯護 ウニロノ 和名

しき

詩歌 朝夕ノ

芳 ウツケ ありしき

かしき

一 わかき

一 西の

一 うち

一 西の

一 らしき

一 らしき

一 らしき

朝餉 あけ

照ノ字

ありしき

葎ノ

ありしき

家媚 ナシ

一 ありしき

一 わんわん けきん

可^{アツク}惜^{万葉} わんわん けきん

一 ちりちり人

ちりちり人

一 さうれく

悪ノ字

信ニシテ

一 ちりちり

速ノ也 ちりちり

一 けりて

緩ノ也 受張

一 ちりちり

世ノ誠困雅外

一 せらふれ

切也 せらふれ

一 ちりちり

眠^{ナド}近^{ナド} ちりちり

一 ねめ

輕^{ナド} 云後滑^{ナド} 宛字

一 ちりちり

似^{ニテ}氣^{ナド} あらわ^{ナド} ちりちり

一 ちりちり

側ノ也 ちりちり

一 ちりちり

清ノ字 錯^{ナド} 梅ノ也

一 ちりちり

馬帽子^{ウマカビ} 視^シ 事^{コト}

一 ちりちり

ちりちり

一 心くはけし

愛常ウツクニ万葉

一 さしちひら

日くちらひ

一 さむらひ

殿上人云又侍臣云

一 ちりひつもの

献上物

一 とんしき

屯食 下宿給飯

一 ちりき

移んちりき云

一 小ぢり

中しき云 三十二

第本

一 ちんしき

不祥サカサ 悪口

一 まあき

真之 解り

一 ちり

ちりき云

一 ちり

日霖

一 ちり

治サカサ 漸又頗云

一 ちり

切打者

治理世事也

一 どのうき

足つらぬのうき
まじりつらぬ

一 せんまきは

怨 しくつらぬ

一 ともかして

志下 人さうはく
河

一 かゝうき

行 如 日本記

一 中つきて

由身 中あらく

一 ぶらりせん

賺 字くつらぬ
信あつらぬ

一 けちめ

結目 掲目

一 世のまゝの

世とらまゝの
ぬまの人

一 たりき

使 世の中らあつらぬ
つとらあつらぬ

一 きくあめ

不 習 成 不 性 ちの
通 不 厚 足

一 うましく

あつらぬ

一 かつらちや

さあつらぬ

一 らぬき

省 略 せむ

一 ねんじりたか

葉くおきくつらぬ
えりて

一 せふらふらふ

せふらふらふ

一 せいゆ

派別

一 ままのうらわ

其器量と云つ

一 まぢやう

真又實

一 ちり

契白

一 ちり

言撰

一 ちり

正は

一 ちり

ちり

一 ちり

ちり

一 ちり

貧相

ちり

一 ちり

君子之文

一 ちり

ちり

一 ちり

曲

一 ちり

悔人

ちり

一 名んか

一 一々々々

一 一々々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 一々々々

一 不^レ信^レし^レう^レ
 一 物^レを^レん^レ
 一 言^レを^レひ^レか^レ
 一 恨^レふ^レ身^レを^レ
 一 不^レり^レて^レ物^レを^レ
 一 之^レの^レみ^レ
 一 心^レを^レら^レり^レせ

因情 コトノキナヒ
 托仙塵

物怨也 嫉妬事

まじうのつてやうく
あつらへ

論語

トスルハ
トスルハ
 區怨ヲ友其人ト

面佈

常はくつまひき
え

當時也

よのめくせん

懲コラス之

一 かく^レた^レき^レく^レハ
 一 祢^レん^レし^レあ
 一 ソ^レの^レ志^レを^レひ
 一 あ^レつ^レま^レき
 一 ち^レう^レち^レ
 一 家^レを^レら^レこ
 一 う^レの^レま^レん^レつ^レく

形達 カタツシ
文選

たうしん
おらうしん

堪忍をまよの
ん
ん
ん
ん

浮アコカ名

ふたまため
う

別 ヒ
班
 後記念

媚心 チカウ
ココロ
 家 チカウ
ココロ
 家室 チカウ
ココロ
 世 チカウ
ココロ
 世 チカウ
ココロ
 世 チカウ
ココロ

一 正身
一 志
一 志
一 志
一 志
一 志
一 志
一 志

正身

志

志
志
志
志
志
志
志
志

屢

臭

一 志
一 志
一 志
一 志
一 志
一 志
一 志
一 志

廢

字

志
志
志
志
志
志
志
志

一 ぎししめ

總の字

一 しししし

之妻のししのたし

一 さしししん

流浪のししんしし

伶俜 流離

一 むししし

悲の窟

千七 千思日本記 千陽熱
二合二 集

一 さんししし

おししのしし
人のししし

一 さえのしし

方学のあらし

一 二つの道

白氏文集 徳我歌西道
富家の女の易嫁早
輕其夫會家の女の難
嫁の晩孝於姑
貧の家の徳の事の

假名の文字のしし

きしししし
得の事のしし
奇のししし

一 むししの人

むしし

一 うんしし

一 ちしし

一 ししし文

一 幸ひ終ふ

賺也 幸ひ終ふ云々

一 此れのみなり

たゞ一 鼻たぐひ

一 二急をうた

と也云々 古利

一 婦くやう

暖病之 成抄 風病

一 う福らのきやく

抱越ノ 草葉と 腹と云々

一 ううしうら

雜事 等々

一 ううちうて

不役

一 かけあや

かけうし 人 6回

一 木うらふ

真成 之 事

一 ちくつやく

蠢 ちくつやく

一 ちくち

わびく

一 ちくち

ちくち

一 三史五經

三史ハ 史記 不漢書

後漢書

論語 知者 言未 必

子經ハ毛詩撰記左傳

周易尚書

廿七世のありし一
志して七日の
真名と云ふの
二つと声と
しとわ
おふ
ふの
とせん
知ら
不
為

論語

一
一
一
一
一

辛也

おま

一
一
一
一
一
一
一

おま
おま
おま
おま
おま
おま
おま

一ま〜

真人ハ相治ニ入ル

一ハワラハル

似合也

一ほき〜

ほきハハルニ相治ニ入ル

一おき〜

おきハハルニ相治ニ入ル

一〜

〜ハハルニ相治ニ入ル

一〜

細ク辨チハルニ相治ニ入ル

一〜

〜ハハルニ相治ニ入ル

一〜

云々

一〜

〜ハハルニ相治ニ入ル

一〜

〜ハハルニ相治ニ入ル

費人ニ君石は貞女ニ丈不見

一〜

〜ハハルニ相治ニ入ル

一〜

済

一〜

溺

一 みたぢうのまじ

人の癖ひりく

一 ちうごのめ

子とて歩むては

一 多も志はく

救鳴 國章 あまのこ

一 ちうわく

ちうわく

一 ちうく

楚く記 勅文 戦字 ちうく

一 にとく

面泥 ラセカク

一 ちうごのめ

洞おつとせん

一 ちうごのめ

後きてとるる

一 ちうごのめ

吾子 日記

一 ちうごのめ

ちうごのめ

一 見けう

見滅 人の癖ひりく

一 ちうごのめ

無心

一 ちうごのめ

不用

一 ちうごのめ

忘字

ちうごのめ
ちうごのめ
ちうごのめ

金輝

一 夕のりん

一 夕のりん

一 夕のりん

一 夕のりん

一 夕のりん

夕のりん

懐 ウシタシ 懐 日記

将計 カハル 成方便

日とてみる

友の心

一 夕のりん

一 夕のりん

一 夕のりん

一 夕のりん

一 夕のりん

一 夕のりん

一 夕のりん

袴腰也

傍側云 カキ

如 カキ

カキ

カキ

カキ

園春 結之

一 ちんちんは

子来、ちんちんは
おきか、ちんちんは

一 ちんちんは

初 ちんちんは

一 ちんちんは

困 ちんちんは

一 ちんちんは

ちんちんは

一 ちんちんは

人のちんちんは

一 ちんちんは

退散、ちんちんは

一 ちんちんは

ちんちんは

一 ちんちんは

今夜、ちんちんは

一 ちんちんは

ちんちんは

一 ちんちんは

ちんちんは

一 ちんちんは

ちんちんは

一 ちんちんは

真也、ちんちんは

一 ちんちんは

淡忌、ちんちんは

一 ちんちんは

侍者、ちんちんは
白身文集
お房、ちんちんは

一 ちとえふまじく 堪忍 一 一 一
一人ふくち 人香也

夕良

一 ち縁く 一 宗く かの縁深く
一 ちらうばい 一 ち縁 ちらふく
一 ちもたひ 一 松縁 ちらふく

一 ちらふひ 一 ちらふく ちらふく

一 ちらうせいのり 一 ちらふく ちらふく

一 ちてらうに 一 唯妍 日記 ちらふく

一 揚名助 一 三々 一 一也 一 一也 一 一也

一 ちらふまに 一 胎也 又 胎計 日記

一 ちらふまに 一 胎也 又 胎計 日記

一 ちらふまに 一 胎也 又 胎計 日記

胎人

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

ちのちのちのち

一 きくしんけふ

乳疎 乳外 あまらふ

一 あいぬきうり

あまらふ いん 作 の

一 いこたしん

憐

一 希しとわらふ

繁 沈文云 食父母

一 いこたふ

る者多

一 ちういあや

之れ也

一 ちぬまの屋

翫 放埒

一 ちんれく

せん う い い

一 ちんせき

八月九月正長夜子聲
不聲之止時 白氏文集
念修也

一 ちんす

吾業

一 ちんやふ

席廬也 俗 い い

成抄 毛 熟 海 来 小 児
変 並 似 たり 及 了 ん
中 い い 云

一 志くしう

為教 ニニコラス 志くしうのてい

一 清ら折

盤折通 廠巖 文集

一 中かむ

寛 ちうしん

一 ねくまのたら

輿 日記

一 初うし

本 志くしう

一 小風く

云二世

一 志よる

志け上 志くしう

一 志くしう

志くしう

一 婦 同ふ

志くしう 婦 同ふ

一 志くしう

未審 志くしう

一 志くしう

進心 志くしう

一 志くしう

志くしう

一 志くしう

方俊 志くしう

一 志くしう

志くしう 志くしう

一 ちちやうり

絶色 北山庄 真實之

一 せまんのたし

會者定離也

一 ことし

ことしんこく

一 くらげ

屈也 苦心之

一 福とひきて

福とひきてと云

末摘歌

一 ワんこころ

王家等倫王孫也

一 かいしん

潜ノ字ノうくら

一 ニツの友

樂天山宮之友琴詩ノ

酒也

一 いてや

爰言也

一 さいふ

透坂也 竹うらひてさう

一 かしら

初ハはしこむと云
春のこころ

一 けしき

葉ノ葉

一 けしき

けしき

一 けしき

けしき

一 けしき

雪

一 けしき

雪

一 けしき

雪

一 けしき

雪

一 けしき

たれ霞

一 けしき

たれ霞

一 けしき

たれ霞

一 けしき

たれ霞

一 けしき

たれ霞

一 けしき

たれ霞

一 けしき

たれ霞

白氏文集

一 弓の音はく

一 さうりひて

一 まうひう

一 松の雪

一 弓のりたあや

一 弓のふみ

一 うらや

翫

おもひおもひに遊ぶ

莊子

まうくしのたま

さうりたあや

松の雪はく

わうりたあや

之 伶方

弓のふみ

まうくしのたま

さうりたあや

一 うらや

一 弓のりたあや

一 さうりひて

ちりわらわ

平定文

ちりわらわ

松の雪はく

おもひおもひに遊ぶ

紅葉賀

一 さうりひて

赤賀の紅葉賀

まうくしのたま

ちり

一 ちりり

右めしりり

一 ちりり

あやふ文之錦さの文さ
目からさくさくさく

一 人のえり

唐さえり

一 ちりり

唐さ麗

一 ちりり

種く多りこり

一 ちりり

也ト堂上お文之右族之
又云有職

一 ちりり

力のもたらさのり

一 ちりり

ちりり

一 ちりり

乳のちりり

一 ちりり

楚記 ちりり

一 ちりり

咒呪のちりり

一 ちりり

ちりり

一 ちりり

之心後

一 ちりり

ちりり

一 はらひ

袖をあらはす

一 つまじり

詩云一日不見如三秋

一 いらり

驚駭 日記

一 うばり

蝙蝠とえ扇と作始

一 ぐさ

害也

一 ぎ

賺字也 俗にたす

一 ら

殆也

一 ちり

ちりちり

一 か

かき

一 へ

現心

一 へ

俗に

一 へ

言面

一 へ

替袖

歎喜

一うたれたのか

一きんじん

一文はくさ

一皆たぐらふ

一まはるゝのうら

一たぐらふ

文學はなほさうめん

韻字一字はなほ

詩と作との

詩文之文と作との

たぐらふ

こまごま

志すこと

ありあけ

一かくさう

歎喜のうら

一りらかの

紅葉のうら

一袖うら

袖のうら

一たぐらふ

霞

一うら

紅葉のうら

一あれじくはき

わらわら

一うら

うら

一 心わがや〜

国章 又櫻

一 心〜

心〜

一 扇〜

和泉式部假名記より人の
扇と云うてと書り

東波騎 換扇唯逢春夢

梁 春夢 梁ハ

廿異名之唐古ハ夫婦

約ラ〜

一 心〜

寔也 心〜

一 糸のた〜

妹也 糸〜

一 心〜

不肯 心〜

一 心〜

心〜

一 心〜

後心〜

一 心〜

心〜

一 心〜

心〜

一 文〜

詩 心〜

心〜

一 ちんちん

光榮

一 ちよよしひら

粧

水糸抄云男女お装束の意

一 われたたけ

舞

論語解 省目也

一 いま

酔

一 ぬまのひよひ代

湯成光孝字多醜

一 袖号

袖号とは装束の下より
女房のよめの袖と

一 ぬら

不祥 日也

一 ちんちん

川

一 今

南

夢

一 世の

一 かん

神

神

一 ね

あ

一 雑人

雑人也

一 雑人の心

雑人の心 雑人の心 雑人の心
雑人の心 雑人の心 雑人の心

一 下

下 下 下 下 下 下 下 下 下 下

一 車

車 車 車 車 車 車 車 車 車 車

一 車

車 車 車 車 車 車 車 車 車 車

一 かく

かく かく かく かく かく かく かく かく かく かく

一 かく

かく かく かく かく かく かく かく かく かく かく

一 かく

かく かく かく かく かく かく かく かく かく かく

一 車

車 車 車 車 車 車 車 車 車 車

一 車

車軸と

一 ぬしあやう

一 本草し

一 ふうらほまき

一 ちんちん

一 ちんちん

一 ちんちん

一 ちんちん

一 ちんちん

一 ちんちん

一 ちんちん

一 ちんちん

一 ちんちん

ふらふらとわの文を
らふらとわの文を

君子性風小人之德草也
卓高風少偃 論語

遠くそのまきうを
とを合洋む祈之

うとまき愛候之

健ノ字之 照向しとまき
とまきとまき

愠之 海の中とありし

曆博士之 推古天皇十三年
歲次甲子正月戊午

朝始用曆白
爰の末もくくハ又と
一 ちんちん

上篇 ちんちん

下篇 ちんちん

ちんちんハ治御ノ日ノ

イキスツクハ十ハ
冥鬼取個人 於此屈

一 一とくしんきん

験者也

一 じねくくくす

字一しんきんきん
わらきてたをるぬえ
後入らし〜終也

一 まふりつと

一 山の井はあ

山の井乃水ハあとい
井はあとい〜

一 田子

俗泥ふたりきん

一 あけく〜ん

極音

一 ちよき〜

いづきあし名〜ま
命〜

一 うはのきん

牛買ノ事〜

一 はらぬ〜ゆ〜

あやぬ〜く〜

一 一〜き〜れて

調也

一 声〜あ〜あ

こゑのあ〜あ〜
法華經敏達天皇の年
ハ朝ハ後〜云々

一 一〜あ〜あ

〜い〜あ〜あ〜

一 一〜あ〜あ

〜い〜あ〜あ〜

一袖の上はむ

一ふれたや

一わくく

一ぬくぬく

一はらうつえ

一ゆくりせめり

一くくく

一女のこころ

一くくく

一えおとと

一なるまじく

一あてし

な文とるふの事や
るくこのまゝに
我あやうめるとかや
きんともうし
このまゝに

男くく

文選宗玉神女賦アリ

文集支頤

俗火の消らや

苦痛屈

後成うの詞とる
負ゆき世の事
いさくめり

そらり

あつたはしえ
えまめい

あつたはしえ
あつたはしえ

童のまじ

一 杉りしつらう

一 わうくさゆ

一 むらさき

一 さくらんぼ

一 さくらんぼ

一 下と枕

一 舞きこ

ひな風らゝの神田
威しと云ふ
あまのつらう

あまのつらう

涙の鼻のあま

さくらんぼ

長恨歌と云ふ

親子の縁

一 杉りしつらう

一 さくらんぼ

一 さくらんぼ

一 さくらんぼ

一 さくらんぼ
この

一 さくらんぼ

さくらんぼ

さくらんぼ

兵衛也と云ふ

文字のゆゑ

阿郡志隆集曰十月亥日

作解舎之使人を病之

捨破子 捨のちと云ふ

一 三つとて

一 心をひて

一 切しこの箱

一 わらわし

一 由さうと

一 一とて

嫁娶の二果わらわし

枕の上をさへこの大事也

心は ちとほひて

ちのた具さへ入る

わらわしとて

餅の四

浪急こニテ夜解ハ
浪急こニテ夜解ハ

一とて

ちとて

新也

一とて

新也

一とて

長也

枕架 延式

禮記内別篇曰男女不同
枕架不散懸亦丈夫禕枕
男女同

ふんふんふんふん

神

一 神の道

ふんふんふんふん

真砂

一 ぬき

不審也おろし

一 ぬき

ぬき

一 夕月夜

夕月夜 月夜

一 おき

不慮也

一 人の中

人の中

一 ぬき

ぬき

一 ぬき

ぬき

一 小糸と大地

野、土、所のぬき

一 ぬき

大地のぬき

一 ぬき

ぬき

一 くらわん

二 曲のり

一 志々の外

注連 目も記 山綱繩 日記

一 くらわん

引くくらわん

一 夜のくらわん

夜のくらわん

一 くらわん

夏のくらわん 受張

一 くらわん

まのくらわん

一 下葉くらわん

冬くらわん

一 馬車くらわん

琵琶行 馬車 馬車

一 くらわん

くらわん

一 くらわん

早連 くらわん

一 くらわん

南腹の事

一 くらわん

三 別

一 くらわん

黒のくらわん

一 くらわん

くらわん

一 ぬりのこぶ

一 つまみくろりて

一 せやつこぬん

一 つまこひりて

一 らまきゆ

一 いつこさかりそホ

一 ねしうり

古きあらしきしきちうめ
伊勢お徳のぬりこぶ

氣のゆかりりて

ぬせのほほぬん

西んしうせりて

條外

ゆき菊目すさりて

尼おきんのて

一 せきゆん

吏記曰呂后死威夫人其子
諸王囚威夫人ヲ斬羊足志
眼輝草ヲ飲シテ瘡兼使居
廁中令テ曰人蔬

一 ろむらこぬん

一 ねしうり

一 つまみくろり

一 ちうしほぬん

一 玉のまきこぶ

お家あらしき

尻まらつこぬん

むしふらぬん

せきおきりて

毛詩 白圭尚可磨

一 雲林院

淳和雜宮也業武部之墓ハ
雲林院白毫院ノ南新皇
西也 業野ニ雲林院有由

一 かつわらうぬた

急路ふむりうた

一 念佛象生

觀之量壽經 光明遍照
十方世界 念佛象生 攝取
不捨

一 しく

神くまうん

一 みのしおれり

けり波向之りうん

一 山けさふ

集日中記云序の畏万葉

一 ちあふ

瓶也

一 ちうんうんぬた

ちうんわらうた

一 白虹日とほぬまり

漢書曰荆軻慕燕丹之儀
欲刺秦王其精誠上感於天
白虹貫日ヲ太子畏之下略

一 ちのうんぬた

あつしをうんぬた

一 ちちうんぬた

ちちうんぬた

一 玉のちく

玉軸羅表紙細快善快善ハ
巻物のたまうり善貴の向く端と
志て縁と指てその縁と有る也

一 取捨

取捨也或取是經札の是也
むらりめりて

一 五くんの日

身三日薪の法あり日見
中二の是提婆品之

一 たごころ

採薪及草蔬隨時恭敬与
提婆品也

一 おりてきて

法華經を讀嘆ちりて

一 いむら

受戒の事

一 よ川僧教

惠心僧都隱居横川号ス
横川僧都ト
名燒也

一 なるもの

一 くら

くら

一 のの

三ヶの一也 秘事ト云傳はる
ちり小記と小及

一 馬

白馬 白馬のりハ今ト申宮川ト

一 なるもの

白馬を今申す
又白馬のりト云

一 なるもの

一 孫

一 ぬ

掩韻 右集の詩ノ韻とぬとて
何文字と推して傍頁と

一 ぬ

文殿也 文庫也

一 殿上人の大家の事

一 うきもの

一 ざんげの事

一 うらぐらし

一 ざんげの事

一 うきもの

一 きんぎょの事

大家の寮に入て、その向をうり、
又その寮に入て、その向をうり、
ふりかへて、その向をうり、
その向をうり、
その向をうり、
その向をうり、
その向をうり、

慈愛せ

一 うきもの
一 うきもの
一 うきもの
一 うきもの
一 うきもの
一 うきもの
一 うきもの

歌集 古早流 自 つかへぬ
歌集 古早流 自 つかへぬ
歌集 古早流 自 つかへぬ
歌集 古早流 自 つかへぬ
歌集 古早流 自 つかへぬ
歌集 古早流 自 つかへぬ
歌集 古早流 自 つかへぬ

一 白紙

一 ちりぢり

一 ちりぢり

一 うらぐらし

一 うきもの

一 河の事

一 こめくち

懐中 うちをうり、
懐中 うちをうり、
懐中 うちをうり、
懐中 うちをうり、
懐中 うちをうり、
懐中 うちをうり、
懐中 うちをうり、

梅畑 あらゆる御へ

軽喟 朝暁 せうらく

愛張 諸 びつて

右族 花族の事

おとくち
おとくち
おとくち
おとくち
おとくち
おとくち
おとくち

花友里

一人志きぬふはる

一いさか

一はがさ

一さかひ

人志きぬがはるいさか
はがさのんはる友里の
さかひはるいさか
海原の海原の下さか
ちか
花友里はるはがさの
はるいさか
種小よのさか

一はがさ

花友里

一さか

ちか

一はがさ

声はるいさか
つらひてさか

一さか

あはるいさか

一はがさ

海原の海原の海原と
はるいさか
ちか
あはるいさか
人志きぬはるいさか

須磨

一 世の中よりく
一 けき海に

一 かくいし
一 ころいしと

一 わぶといふ
一 入道の言

一 ちろ車
一 車車
一 位と
一 いち

世らわら... 遠流... 菅叔... 東征... 菅丞相高明...
菅叔系叔の... 東征せ... 菅丞相高明...
ふ...
次磨公... 不...

中 放母の

夫... 入道... 道...

細代車

海... 官...

取強 子車

一 ぬいぬい

過急のぬいぬい 解急のぬいぬい

一 井戸のぬいぬい

須磨の隠居のぬいぬい

一 たらしぬいぬい

前業のぬいぬい

一 ひとまらぬいぬい

藤原の跡たるぬいぬい

一 ころもぬいぬい

田のぬいぬい

一 ころもぬいぬい

虎狼 虎子 なるぬいの虎狼

一 ぬいぬい

ぬいぬい

一 井戸のぬいぬい

昔の人のぬいぬい

一 そのぬいぬい

昔の衣裳のぬいぬい

一 よいぬいぬい

ぬいぬい

一 ぬいぬい

注意ぬいぬい ぬいぬい

一 名前のぬいぬい

隠者の住居のぬいぬい

一 おもいぬいぬい

天子のぬいぬい

一 ぬいぬい

ぬいぬい

一 白集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

一 白集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

一 文集

白集

白集の詩賦とあるは、
お七十一巻有長慶集に
云長慶年中集らる破之

書籍也

白集の詩賦とあるは、
お七十一巻有長慶集に
云長慶年中集らる破之

一 花中ちりぬよきひ

是ハ山紫米の事

一 子中し流石き

領給山庄の牧

皆不願也

一 きん

春とは支後の物

一 万のうへりて

膨月夜ハ此の事ハ

一 今ハと世成

然月夜ともハ

一 噴きけて

定敷ハ此の事ハ

此の事ハ此の事ハ

一 一の水きせ日

後除日ハ此の事ハ

一 うつこくゆり

叙爵也藏人巡給也

一 まりりヤ

辞見日ハ此の事ハ

一 水とうハ道の草

古墳何世人ノ不識也

兼名化ノ依路信士年ノ
春草早生ス 白承天

一 さくらのちりきん

散透也

一 おもあえハ中さ

おまあハ此の事ハ
長女ハ此の事ハ

一 入るきしれつこ

山嶺の者としこ

一 四子のわお

旅あてのり夜物とし

一 しのさしちり

しんしんしんしん

一 ちまのよの

友のちまのよの

一 ちるまのわら

ちるまのわら

一 花とまふこく

白布大持 道安寺鐘
歌枕聴

一 千枝常のり

千枝常別 皆繪師之

一 けりりゑ

けりり絵師ハ墨工のよと
教まらんと云杉名ハ繪師の
口傳あり

一 尺迦牟尼佛す子

金剛佛子某うしんま
りらうしんまのゆまの

一 ちいさしんま

舟をちいさしんまの
り葉を奇うしんまの

一 くのつゝ終て

厚陣男迷秋嶺上

危舟箱千夕陽中

けのつゝ終て

一 友まゝりて

友まゝりて

一 二のひびきあ夜

筆式於いあ夜のうとてれて
石山寺小庭夜していまを
初月如くおりし八月十五夜の
月湖うらうらひくそわ治の
風情うらひまれん先次
明石のあきことりきりさふ
うつて古海の色はこころひび
たる也きりくありとさう
けえ集あ

一 月のうかき

月顔似鏡を朝花
風氣如刀不伐愁
後集

一 二千里の外

三五夜中新月色三千里外
故人心は待らば天八月十五
夜橋中不独真一て對月
寄元慎四韵の一句也

一 久いひろく

類廣也

一 まるく

狂く也

一 くの麻と馬

考辞 見化勅事 勅南の

史記曰趙高欲為亂恐群臣
不聽乃先設驗持鹿獻於二世
曰馬也二世笑曰丞相誤耶謂鹿
為馬同左右或默或言馬以阿
須趙高或言鹿高曰陰中諸

一 ちりちりちりちり

一 竹あちりちり

一 暮ちりちり六

一 ちりちりのく

一 えいつお

一 ちりちりちり

一 ちりちりちり

後選 ちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

五架三向新草堂石階松柱

竹編垣 白糸天

圍基を先造之教丹朱

双六孟嘗君造之

彈碁

平食 万葉にちりちりちり

塵のおよき塵のさく

ちりちりちり

倉屋ちりちり

一 羽のりり

一 風おわりりり

一 ちりちりちり

一 ちりちりちり

一 ちりちりちり

一 人形

一 ちりちりちり

畧 万葉又土産

胡馬嘶北風越鳥巢南枝

馬ハハハ胡国歎之仍也風ハ

わいせいハ曰星を暮すハ

ちりちりちりちり

俗云云あハハハハハ

首ハあハハハ陰陽作醫作

ちりちりちり

人ハちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

日本たハ人ぬハハハハハ

ちりちりちりちり

一海のうたを編む

一雨のあ

一この海の中の

道成集をたひらきぬりて
つくりしふふ年たにわぬら
おとまりしうららにこきり
ぬらぬらなりけ

雨脚地を馳しと云ふおれ

彦火と出見尊海に
とりて失路てつらふを
入て導路きとて就神
顔容おちてまかりて娘の
豊玉を娘におは海童海
三年のあきりて見日記

